

第34回関東奄美IT懇話会 議事録

- 日時:2016年7月27日(水曜日)
会議 18:00～ 懇親会 19:30～
- 会議場所 株式会社ブルーワールドネット
東京都港区芝浦2-16-7 丸宗ビル3F
<http://www.bwn.jp/company/addmap.html>
- 出席者:例会 16名 懇親会 17名

【内 容】

1. 会長挨拶
2. 講演



<http://www.cocoro-co.com/>
電話番号:045-548-4156

講師)但野真実子様をお迎えして、今日どの企業も抱える問題「メンタルケア」についてお話いただきました。

今回は会員の皆さま向けに『IT業界の社長さん約15名向けメンタルケア』がテーマです。

メンタルヘルスに問題を抱えている業種に情報通信業が2位であること、人間関係がストレスの原因を占める割合が高いこと、ストレスの黄色信号(眠れない・食べれない・だるい)、(※ケチな飲み屋)に気づくことが大事、ストレス不全の社員1名(400万円/年)を抱えた場合の会社の年間財務的損失(大替要員の採用、教育、給与・既存社員の残業代・人事部門や上司の人件費・休職者の年間社会保険料)が2,000万円以上の莫大な金額になることなど心身に受け止めて考えさせられました。

また、「自己成長エゴグラム」診断を実施していただきました。

※ケチな飲み屋

(け)欠勤 (ち)遅刻 (な)泣き言を言いだす (の)能率の低下 (み)ミスが多くなる (や)辞めたい

3. 近況報告

池田氏「奄美市職員向け講演をおえて」
福田氏「産業振興、雇用促進の近況」

4. 懇親会

- ・乾杯(重田会長)
- ・その他近況報告
吉田 典子
前川 義一
中山 いその
重田 辰弥(会長)
但野真実子(講師)
松 晋一
里山 洋男
鳴海 實保乃
池田 秀秋
福田 國光
利 成彦
栄 信宏(ゲスト)
筧 武(ゲスト)
竹 健治
原 稔二
中村 和浩
村田 孝
平田 浩一



<提供資料> ありがとうございます！！
 ・松 晋一
 「第33回関東奄美IT懇話会in奄美大島」

・重田 辰弥 会長
 「関東沖縄経営者協会 創立50周年記念大会」、「M&A・アライアンスセミナー」



IT業界におけるM&A・アライアンスの現状
M&A・アライアンスセミナー

1. 事業継承としてのM&A
 重田 辰弥氏
 2. 業界再編を生きのこるためのM&A・アライアンス戦略

2016年7月6日(水)
 PM 3:00 ~ PM 5:00

会場: 沖縄県立博物館・美術館 (那覇) 2F 大ホール

TEL: 098-860-3454

【特別寄稿】
7代目「会長」就任を振り返る！

関東沖縄経営者協会 名誉会長(第7代会長) 重田辰弥

1. 就任の経緯
 副会長就任の2005年、大城5代目会長の後任として会長就任を打診されましたが、当時は関東沖縄IT協議会を立上げ会長に就任の一方、創業27年目の株日本アドバンスシステムが中国へのオフショア委託の不具合で初の赤字決算見込、子会社との経理上の問題で税務当局と対立、重加算税の完税を廻り協議後に支払いという厳しい経営局面に遭遇し、当時会長選定委員長であった大城友宏(沖縄ワリスト東京支社長に何度か辞退の意向を表明しました。しかし、当時親見沖縄県人会長の(有)大城澄材の大城康彦社長の辞任の意志も固く、暫し会長不在の局面を運ぶにいたり、幹事を務める高校先輩の金城勇二(護士が再三来社され、会長就任を繰り返して要請され、止む無く引き受けた経験があります。創業30年初の赤字決算のこの年、会長を引き受けた私に社員から「社長！また沖縄ですか！」と叫びたのを忘れることはありません。この時ほど、CSR(社会貢献)としての業界活動と本業専任の狭間で悩んだことはありませんでした。とはいえ、創業8年目に沖縄を開設し、県庁はじり地元金融業務を委託、県学生のインターシップ実施と琉大卒30人強を含む延べ200人超の県内学生の採用が評価され、種福、仲井親歴代出事から感謝状も頂く等、CSRとリンク並行の業績貢献も果たしました。

2. 会長就任
 こうした経緯で2005年、会員数が隆盛の半数近

3. 「40周年記念イベント」
 新橋の第一ホテル新橋で開催された関東沖縄経営者協会40周年記念イベントには当時の福嶺沖繩県知事が出席、驚いたことに仲村社長の講演だけでなく、その後の懇話会パーティと全プログラムの不出席で、随伴見習員を兼ねさせたと言います。公用で上京、スケジュール多忙な県知事をこれだけ働かした40周年総会は忘れる事は出来ません。福嶺知事参加の理由の一つは福嶺さんが慶応大学卒業後の就職先が仲村さんと同業の「いすゞ自動車」だったことも最後までご出席頂いた一因だったと聞きます。この40周年記念パーティを無事実行できたのは、現会長の仲村さん、当時の琉球大学同窓会東京支部の宮城重哲事務局長、関東沖縄IT協議会の平良・今井副会長、今は亡き高校後輩の風山由美さんや湯川ふき子さんはじめ株日本アドバンスシステム、県メディア21の社員の皆さん等、多くの皆さんのご支援、ご協力の御蔭と感謝に耐えません。本当に有難うございました。

4. 「経営協」と「県人会」
 仲村健雄8代目現会長は4代目竹田会長以来、史上二人目の「東京沖縄経営者協会」兼務の会長となります。ここで関東沖縄経営者協会と東京沖縄県人会の関係も改めてお話しします。「東京沖縄県人会」は1956年(昭和31)に神山政良氏を初代会長として発足、現在の仲村会長が9代目になります。県人会の前身は1945年(昭和20)発足の「沖縄県連盟(初代会長・伊波普猷)」です。それに対し「関東沖縄経営者協会」は、故・仲本潤英氏(戦八汐精機社長)を筆頭とする川崎・鶴見在住の出身経営者

宮城 40周年記念イベントとして思いついたのが仲村会長への基調講演依頼でした。世界企業の再建に奔走、多忙な仲村社長、引き受けてもらえるか不安でした。アプローチ方を模索していたら、経営協役員の大城淳理士の大学後友が仲村社長の直轄部下として活躍していることが分り、そのルートを活かして、後に8代目会長に就任する仲村健雄副会長、弁理士の大城さん、金城事務局長4人で埼玉県鴻巣市の日産ディーゼルの工場本社に仲村社長を誘い、講演を依頼し、快諾を得ました。

スローモーションの撮影、シーソーの盛り上がり、ゴールの達成感、起死の生息も毎日小さな努力が重なることを、賞状から非常に大切に感謝！

若らにより準備され、県人会に10年遅れて1966年(昭和41)、中田匡彦氏(第一物産社長)を会長に、瀬長良直氏(三越重役)、比嘉良徳氏(沖縄財団理事長)、崎山喜昌氏らを顧問とする19社で発足しました。以後2代目栗岡啓(共栄鉄工所社長)、3代目徳里元康(文芸図書社長)、4代目竹田定雄(若竹園理事長)、5代目仲村清祐(仲田日計事務局長)、6代目大城康彦(大城澄材社長)、7代目重田辰弥(日本アドバンスシステム社長)、8代目・仲村健雄会長に引き継がれました。

通常、県人会や郷友会・同窓会等の共同組織は「成員の親睦」を第一として、相和し集うことが目的として、特別の政治目的や宗教を持ち込むことはタブーとされています。ところが東京沖縄県人会は、発足当初から「故郷沖縄の日本復帰」というきわめて明確な政治活動をその目的第一に掲げており、米軍政下にある故郷沖縄の置かれている当時の状況からして、誰も異議や疑問をさし伏せぬはありませんでした。いきおい初任会・神山会長時代には、復帰運動のハンストや抗議集会等、政治運動の担い手としての活動が盛んで、1972年(昭和47)復帰後の喜納浩・2代会長時代もその余韻がつづきました。

この県人会と経営協の色影が交錯したのは、山口國雄4代県人会会長と竹田定雄4代経営協会長時代からです。それには両会長の個人的繋がりや時代的背景の二つの理由がありました。

県人会の前身である沖縄県連盟の伊波普猷、仲原高忠会長につづく神山政良、新崎盛敏の歴代会長はいずれも役人・学者出身で、対し、山口國雄会長は東証一部上場の海運会社の役員に上り詰めた企業人、山口県人会会長は県立一中出身、竹田経営協会長は三中出身と学校は違いながら共に同期、それぞれ県費特待生として京都大学と東亜同文書院大学に進んだ同期仲間らと

・池田 秀秋
 「すべての子にチャンスをも！ 愚鈍中年 奄美奮闘録」

「非行はなくせる!!」

平成16年9月2日 NHK(ドキュメンタリー)放送より
 (非行、不登校、暴力等の深刻な青少年問題と向き合っている31年間の実録)

すべての子にチャンスをも!
 愚鈍中年 奄美奮闘録

※気遣いと感動ですべての子は善く生まれ変わる事ができる
 ※非行の最前線は悲しみの最前線
 ※あなたは子どもの叫び(SOS)に気付いていますか?

自立運動ホーム「さざ波の家・奄美」
 平成12年8月1日 開校

NPO法人奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」

子ども達が笑顔を取り戻すまで
 ~奄美で一番熱い島んちゅ~

